

令和8年度 第1回 東海村健康づくり計画推進委員会 議事録

【日 時】 令和8年6月30日（火） 午後1時30分～午後3時10分

【場 所】 保健センター 検診ホール2～3

【出席者】 ◎：委員長 ○：副委員長 （順不同，敬称略）

住 民 委 員

◎佐藤 栄子，○河合 視己人，磯前 勇，佐竹 尚子，齋藤 周三，
篠崎 典子，工藤 孝子，平田 文枝，江坂 木の実

関係機関委員

ひたちなか保健所 小泉 紀子，村立東海病院 鈴木 剛
東海村社会福祉協議会 坂本 歩

関係課職員

地域福祉課 木梨補佐，保険課 北崎係長，総合相談支援課 齋藤補佐，
生涯学習課 秋山補佐，農業政策課 加藤係長，
学校教育課 石井主任管理栄養士

事 務 局

高橋課長，助川補佐，武藤係長，倉田係長，佐々木主任管理栄養士，
富永主任保健師，京谷主任保健師

【欠席者】 住 民 委 員

石丸 美代子，渡辺 りつ子

関係課職員

子育て支援課 田中補佐

【次 第】

1 開 会

2 健康増進課長挨拶

3 委員長挨拶

4 自己紹介

5 議 題 進行 佐藤委員長

（1）第3次東海村健康づくり計画について

① 令和7年度実績（報告） 【資料1】

② 計画後半スケジュール（案）について 【資料2】

③ 令和8年度計画（案）について 【資料3】

④ 令和8年度の取り組み予定について 【資料4， 4－1， 4－2】 【資料5】

（2）令和8年度すこやか委員の活動計画 【資料6】

6 その他

【議 事】

(1) 第3次東海村健康づくり計画について

事務局	①②③について、資料1, 2, 3に基づき、佐々木主任より説明。 ④について、資料4, 4-1: 倉田係長より説明 資料4-2: 助川課長補佐, 京谷主任より説明。 資料5: 各課より今後の取り組みを説明。
-----	---

【関係各課の今後の取り組み】

北崎職員 (保険課)	国民健康保険加入者を対象とした保健事業や、75歳以上の高齢者を対象とした「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」において、介護予防事業を実施している。 特に力を入れているのは健診受診率の向上である。国民健康保険の特定健康診査については、村の集団健診や人間ドックでの受診に加え、特定健康診査指定医療機関で受診する個別健診、診療情報提供事業への協力(持病のために実施した検査項目が特定健康診査の項目を満たしている方が対象)、職場健診の受診結果の活用など、受診しやすい環境づくりに努めている。 また、AIを活用したデータ分析により受診勧奨対象者を5つの行動特性に分類し、それぞれの特性に応じた受診勧奨通知を作成し発送している。この取組の結果、令和7年度の特定健康診査受診率は、国民健康保険加入者が50.7%で県内第1位、後期高齢者が38.8%で県内第2位となった。 さらに、健診受診後の訪問活動にも力を入れており、メタボリックシンドローム該当者等を対象に特定保健指導を実施している。特定保健指導については、健康増進課の協力を得ながら実施しており、利用率・終了率ともに県内トップクラス(常に県内5位以内)の実績を維持している。 このほか、健診結果から医療機関の受診が必要であるにもかかわらず未受診の方や、治療を中断している方に対して医療機関への受診勧奨を行うなど、生活習慣病の重症化予防に向けた様々な取組を実施している。
齋藤職員 (総合相談支援課)	障がい福祉担当、相談支援担当、地域包括推進担当の3つの担当があり、主な業務内容は資料のとおりである。 相談支援担当では、専門職を配置し、住民の相談支援に携わっている。 特に力を入れているのが、自殺対策強化事業である。新聞や報道等で既にご存じかと思うが、小中高生の自殺者数は非常に増加傾向にあり、令和7年度は全国で538人に上り、統計開始以来過去最多となっている。 夏休み明けに不登校が増えることへの対策として、村立中学校と連携し、

	夏休み前にＳＯＳの出し方に関する講座を実施している。１年生にまず自分のＳＯＳの出し方を学び、２年生では友達との関わりの中でＳＯＳのサインを受け止め、適切な機関につなぎ、見守るゲートキーパー養成講座を開催している。講座をきっかけに、学校の友達につらい状況であることを相談し、それが役場の総合相談支援課につながったケースや、学校のスクールカウンセラーにつながったケースもあり、事業の効果を実感している。今後も継続的に実施していく。 また、令和８年度は資料③の居場所及び生活実態調査として、ひきこもりに関する調査や、ＤＶ及びデートＤＶ防止講座を新規で実施する。 東海高校の１・２年生に対して実施した講座では、学校への相談事は女子生徒からの質問や相談が多いのではないかと推測していたが、男子生徒の割合が少ないこともあり、男子生徒からの相談も多い実態があることが分かった。アンケートの集計後、別の機会でも共有できればよいと思っている。地域包括担当の取組については、資料をご覧ください。
木梨職員 (地域福祉課)	高齢支援担当では、第９期高齢者福祉計画の評価と、第１０期高齢者福祉計画策定に向けた準備を進めている。本日の追加資料「高齢者福祉の推進」を参照いただきたい。基本理念「健やかに いきいきと 暮らせるまち」を目指している。 新規取り組みとして、p２「みんなでほっこり楽しい お買い物ツアー」を高齢者の介護予防につながることを目的に５月から９月までの間で全１５回、大型店や薬局での買い物や昼食を楽しみ、自宅まで送迎するツアーを試行的に実施している。一人暮らしの参加者が多く、買物になかなか行けない方や重い荷物を運ぶのが大変な方など、人と話して一緒に昼食を共にすることが楽しかったと好評を得ている。 ７０歳以上の心身の健康増進を図るため、・はり・きゅう・マッサージ等の施術費助成券を発行している。高齢者センターでは、お風呂やプールなどの施設があり、絆に行く巡回バスが出ている。敬老祝い事業では、７７歳、８８歳、１００歳以上の方にお祝いを贈呈している。 介護予防活動を行う団体への支援や、高齢者クラブ・シルバー人材センターの支援を通じ、地域の人とつながりを持ち、地域の中で活躍できる仕組みづくりを行っている。今週末（７／４）には芸能発表会を予定している。 いばらきシニアカードは、茨城県の事業になるが、村内でも利用できる店舗が多数あり、割引等の特典が受けられる制度である。広報とうかいで周知をしたことで、利用促進が図れた。 地域支え合い体制整備事業は、社会福祉協議会への委託により困りごとの解決を地域で支え合う仕組みづくりになるが、１層から３層の協議体で構

	成され、自治体単位で困りごとを話し合い解決する仕組みになっている。 外出支援タクシー利用料助成事業は、要支援 1 以上の方に外出支援や社会参加の促進を図っている。 理美容店に行けない方には訪問理美容をご案内している。傾聴ボランティアは、利用者の話を聞いたり施設の内容を見ていただいたりと、高齢者の健康づくりに寄与している。 避難の支援が必要な方には、「避難行動要支援者避難支援制度」により、地域の協力のもと要支援者をみんなで助ける仕組みになっている。
田中職員 （子育て支援課）	欠席のため、資料参照。
加藤職員 （農業政策課）	農業支援センターの取組としては、村の農業の基本的な指針である「東海村農業振興計画」に基づき、地域農業の振興を図るため、地産地消の推進事業を実施している。 4つの基本施策の1つとして、「地産地消を軸とした地域資源を活かす農業」を掲げている。 地元で採れた農産物を地元の方に食べていただくため、生産者から販売者、消費者に至るまでの農産物の流通の流れの中で、生産者と消費者がつながる仕組みを整え、地産地消の促進を図っている。 特に消費者に対する働きかけとして、重点的な取組の1点目は、「とうかい育ちシール」の推進である。東海村産農産物の知名度向上と消費拡大による村農業の活性化を図るため、「とうかい育ちシール」を作成した。生産者には、シールを貼った農産物を「にじのなか」や小売店で販売していただき、知名度向上に取り組んでいる。 さらに、村内小売店と連携し、農産物の購入をきっかけに食への興味・関心を持ってもらう取組として、シールを集めて応募した方に抽選で新鮮な野菜を贈呈するキャンペーンを毎年実施している。イオン東海店とも連携し、シールを貼った農産物を購入した方にWAONポイントを進呈するキャンペーンを実施しており、先週の金曜日（6/26）から今年度のキャンペーンを開始している。「とうかい育ち」の農産物販売は、にじのなかに行かないと取り組みが続けられないという問題があるため、文化祭などのイベントにおいても、農産物の販売機会を設けている。 計画作成にあたり実施したアンケートでは、とうかい育ちシールの認知度が7割弱という結果だった。高齢者の認知度は高いが、子育て世代や子どもへの知名度の向上が課題となっている。農業体験による農業理解の促進として、村内の生産者に協力をいただき、夏休みの収穫体験を健康増進課

	と連携し、エンジョイサマースクールの一つとして開催する。技術知識向上の機会の創出として、地産地消になる担い手になる生産者の技術の底上げ策として講習会を開催している。 基本的には、昨年度の取組を継続して実施していく予定である。
石井職員 （学校教育課）	今年度の取組事業は、資料のとおりである。 栄養教諭が中心となり計画を立て、児童生徒に食に関する指導を行っている。 昨年度からは、肥満等のある児童生徒に対して、個別対応として栄養教諭が個別相談・指導を行っている。学校給食で使用する食材は、地産地消の観点から地場産品の活用を進めている。 今年度も、JAの協力のもと、小学校3年生を対象にとうもろこしの皮むき体験を実施し、その後、給食で提供する取組を行っている。 また、昨年度も実施したが、台湾バナナを取り入れた台湾献立など、世界の献立を知るといことで世界の料理の紹介を行っている。今年度の新たな取組としては、エンジョイサマースクールの一つとして、児童生徒から学校給食の献立を募集し、優秀賞に選ばれた子の献立を学校給食で提供する予定である。 昨年度はオーガニック食材を取り入れた献立を提供したが、今年度も引き続き、オーガニック食材を取り入れた献立を提供する。
秋山職員 （生涯学習課）	健康づくり計画に運動・スポーツの分野からかかわっている。スポーツ推進計画を定め、「運動・スポーツを通して人がつながり、まちが元気になる」という基本理念のもと、運動・スポーツに親しむ機会を創出しており、週1回以上運動・スポーツを実施する人の割合を60%以上にすることを目指している。 健康づくり計画における生涯学習課のミッションは、日常生活で意識的に体を動かす人の増加に向けた取組である。 行政だけで進められるものではなく、スポーツ振興財団や社会福祉協議会、スマイル東海などの関係団体と連携・協力を図りながら進めている。 今年度の取組事業の1点目は、6月6日に開催済みの「TOKAI まるごとロゲイニング」は、運動・スポーツに親しむ機会の創出はもちろん、運動・スポーツを通して改めて東海村というまちの魅力を再発見しようということを目的に掲げ、スポーツ推進委員が企画し、今回実現した初の取組である。当日は親子やお友達同士など17組が参加され、半日をかけてチェックポイントを回り、ゲーム感覚で歩くことを実践した。 2点目のスポーツフェスタは、今年度も引き続きスポーツに親しむきっかけづくりとして11月29日に予定している。

	3点目の「ニュースポーツだョ！全員集合＋プラス」については、スポーツイベントをきっかけとして参加した方をいかに習慣化させるかということをも目的として、月1回程度、スポーツ推進委員によるニュースポーツの体験会を実施している。事業後のアンケートでは、運動習慣のある方の参加率が高い状況である。運動習慣のない方に参加してもらえるよう、健康づくり計画に掲げた目標達成に向けて、手段を適時見直しながら取り組んで行く。
--	--

【意見、事前質問等】

・令和8年度の新規事業に関すること

齋藤職員 (総合相談支援課)	オンライン助産師相談事業の利用状況と啓発について伺いたい。
事務局	4月に1名、6月に2名の登録がある。導入後間もないため、現状把握を進めていく段階である。今年度4月以降の母子手帳交付時に制度の周知をしている。

・令和8年度の重点施策に関すること

工藤委員	「日常生活での身体活動量の向上と運動習慣の定着」に関して、「元気アップ！リ いばらき」を入れるお手伝いをすることで、スマホ操作が不安な人でも参加しやすくなる。絆やウォーキング以外のイベントや場で事業を紹介すれば、より多くの人に事業を知ってもらえる。まずは「ポイントが貯まる仕組み」に興味を持ってもらうことから始めてはどうか。
委員長	「元気アップ！リ いばらき」のダウンロード方法や、ポイントが貯まる仕組みについては、すこやか委員会でも話題に上がったところである。役場の「スマホ相談窓口」でアプリのインストール支援を行うほか、関係機関とも連携しながら、普及に向けて取り組んでいただきたい。
石丸委員	「受動喫煙防止と口腔健康の一体的推進」に関して、喫煙者は周囲への配慮が必要で、基本的には自身の健康を守るために禁煙することが望ましい。スポーツフェスタでのスモーカーライザー活用により禁煙者が増えることを期待する。 また、口の健康は全身の健康に大きな影響を及ぼすため、村の検診時に、「口腔健康相談」を加えてはどうか。
事務局	健康増進課では、集団検診時に特定保健指導の一環で、口腔指導を行っている。その他、妊婦と成人を対象にした歯周病検診や、1歳6か月健診、2歳半歯科健診、3歳児健診、5歳児健診、妊婦とその家族を対象にした

	ハローベビースクール、生後4～5か月の保護者を対象にした歯ッピー離乳食教室など歯科保健事業を実施している。
保険課	今年度は、75歳以上の後期高齢者の歯科受診率向上を組織目標に掲げ、重点的に取り組んでいる。後期高齢者健診を受ける際の「高齢者の質問票」の項目にも「半年前に比べて硬いものが食べにくい」、「汁物でむせる」という項目があり、この項目に該当する方の割合が、東海村は県より高い割合で歯科受診率も低い状況である。歯科受診率の向上を目指し、該当した方には、口腔機能向上プログラム講座を開催しており、教室の案内を個別に通知している。歯科衛生士が初回、中間、最終と3回の個別指導を行い、口腔機能の維持・向上が図れるように取り組んでいる。参加者の中には、この講座をきっかけに受診につながった方や、口腔機能向上のために義歯を作った方もいた。むせることが少なくなった方や、話す言葉が聞き取りづらかったがはっきり聞き取れるようになったと家族に言われて、うれしかったという住民の声をいただいている。口腔機能向上プログラムに参加し、好評を得ている事業である。ハイリスクの方に対して個別のアプローチをする以外にも、イオンや図書館、絆、役場等で「高齢者の質問票」を活用した高齢者の健康チェックを行っている。保健師や管理栄養士等が個別に状況を聞きとりし、その方に合った保健指導を実施している。むせがある方には、パタカラ体操や唾液腺マッサージを紹介し自宅でも実践していただいている。そういった地道な活動により、令和6年度と令和7年度の比較では、「汁物でむせる」と回答した方の割合が令和7年度は0.4%減少した。今後も地道な取り組みを継続していく予定である。年に1回から2回、定期的に歯科受診し歯石を除去してもらうこと、歯磨き習慣、高濃度フッ素入り歯磨き粉の使用、歯間ブラシの活用など、毎日の積み重ねが、今後の歯科予防につながるので、周囲の方に広めていただきたい。また、「元気アップ！リ いばらき」のアプリについては、高齢者の健康チェックを対象事業としており、来場者に周知している。

- ・「各課の取り組みシート」について、注目した取り組みや、健康増進課と他課の連携が必要と思われる点など

佐藤（佳） 委員	「受動喫煙防止と口腔健康の一体的推進」に関して、子どもたちから「大人になったら、カッコいいからタバコを吸うよ」という話を聞くので、子どもの頃からタバコには害があることをしっかり学ばせないといけない。肺のダメージなどを学ぶことは大切だと思う。 また、子どものスマートフォン利用について、ユーチューブやゲームを遅くまでやっている子どもがいるようです。目や脳の発達にも悪影響があ
-------------	--

	と思うので、スマホ制限について考えてみてはどうか。茨城県では近視の子どもが多いとのことである。将来的に白内障・緑内障の原因になるので対策が必要だと思う。
石丸委員	「とうかい育ち」シールについて、イモゾーシールの野菜を購入しシールを集めると農産物のプレゼントがあるので、にじのなかでシール付きの野菜を買っている。おかげで野菜を1日350gしっかり摂れている。これはうれしい企画なので、今後も継続してほしい。

【感想・ご助言等】

坂本委員 (社会福祉協議会)	担当課に限らず、各課が一緒に何か1つの事業に取り組んだり、企業と協働で事業に取り組んだりするなど、いろいろと支え合っていると思うが、今後連携して取り組む予定や今まで共同で実施した情報などがあれば、今後のヒントになるので紹介いただきたい。
事務局	健康増進課の今年度の取り組みで紹介した内容になるが、生涯学習課のスポーツフェスタや、農業政策課とのエンジョイサマースクールになる。他にも皆さんと連携して取り組んで行きたいと考えているところである。この場に限らず、そういったアイデアがあればお声かけいただきたい。

(2) 令和8年度 すこやか委員活動計画

佐藤委員長	資料6、活動計画票のとおり、ウォーキングを実施する。ウォーキングに合わせて、4月は歯磨きの仕方などの歯科に関する話をした。5月は熱中症の話を予定していたが、雨天中止となったが、今後も皆さんに1分程度の健康に関する情報を提供していく。
-------	---

【その他】

次回は令和9年2月ごろに第2回委員会を予定